

音楽のよろこび

2024年 8月26日 No.59
発行文責 担当事務局
田中正恭 田村乃里子



立秋を過ぎたとはいえ、日中はまだ暑い日が続いています。このような季節、落ち着いて音楽を聴くところではないと言われる方々もあるかもしれません。でも7月のコンサートは、すばらしい演奏の連続、最後のブラームスのピアノ四重奏に到り最高潮、最終章のチャルダッシュ（ハンガリーの民族音楽）でのピッタリ息の合った熱演に皆さん大満足の様子で、本当によかったです。

そのあとのアンコールはアイルランドの民謡「ロンドンデリーのうた」で、クールダウン。「にくい」演出でしたね。

ロンドンデリーのうたは、様々な歌詞が付いて歌われ、特に「ダニーボーイ」のタイトルでご存じの方も多かったのではないのでしょうか。

毎回、受講生にどう働きかけるか、どうしたら等々、様々な工夫ををして講座を作っていただく監修の金本さん、京響の演奏家の皆さま、有難いことです。

ピアノの塩見亮さん、ヴァイオリン松谷由美さん、ヴィオラ金本洋子さん、チェロー樂恒さん、心から感謝をたく思い、もう一度大きな拍手をおくります。。。。。



本日は「特別講座 指揮者 阪 哲朗さん」です。

今年で8年目の当講座、これまで何度となく受講生の皆様から「指揮？指揮者って？」という声がありました。

私達も、指揮者をおむかえしての講座をぜひ！と思い続けてまいりました。これまでの講座の中で、演奏家の方が少しだけ「指揮」をされたこともありましたが、本格的といいますか、指揮者をお迎えすることは、これまで様々な理由でできませんでした。

しかし、今日、阪哲朗先生（市立芸大音楽部 指揮科専攻教授）が来ていただける事になりました。もちろん金本さんが私達の要望をしっかりと受けとめ、阪先生にお願いして実現されたのです。

さあ、しっかりお話を聞きましょう。お話を具体的に分かりやすくという事で、弦楽四重奏も参加していただけます。今日の講座は全て金本さんをお願いし、こころよく承諾いただきました。

では、始まります。

よろしくお願いいいたします。



～アンケートから～

いつもアンケートにご協力
ありがとうございます。
アンケートは一部抜粋したのもの
あります。ご了承ください。

こんなに至近距離で、弦の響き、ピアノの響きを美しく繊細に聴ける贅沢な幸せを感じます。つらく落ち込んだ心を癒してくれる音楽とこんな機会に感謝です（落ち込んでいました）

どれも素晴らしかったです。ルビンシュタインのピアノの高音低音とヴィオラの響きがとても心地よかったです。ピアソラも猫ちゃん加わったようで楽しい。ブラームスの大曲もありがとうございました。ロンドンデリーを反すうして帰ります。（Y.Hさん）

本日はオーケストラで活躍するその楽器を、間近で音を聴かせていただき、音色や響きが美しい音楽を感じさせてもらって、その迫力にびっくりです。今日も工夫されたプログラム、すごいと思います。特にブラームスの曲が演奏されて嬉しかったです。

今年もサマーコンサート楽しみにしていました。どの曲も引き込まれて夢中で聴かせていただきました。ピアノと各楽器の美しいハーモニーがステキでした。聴いている間は暑さも日常も忘れられ、リフレッシュできました。後半のブラームス、そしてアンコールはブラボー♪のひとことです。今夜はブラームスをもう一度聴きたいと思います。明日からまた頑張れます！！

素晴らしいブラームスでした。暑さを吹き飛ばしてもらえそうでした。ありがとうございました。

弦楽三重奏、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、という贅沢で夏にふさわしい涼やかな音色♪どの曲も素晴らしかったです。特にピアソラの四季、ブエノスアイレスの冬しか知らなかったの、夏は新鮮で感動しました。ブラームスのピアノ四重奏の大曲！！素晴らしかったです。私の席からは、金本さんのヴィオラの左後方の弦の部分しか見えなかったのですが、それだからこそ、指使いの素晴らしさに見とれてしまいました。（F.啓子さま）

サマーコンサート楽しみにしていました。

弦楽器の各々の特徴がわかる独奏形式は、楽器を知るのにとっても助けになりました。モーツアルトのロンドは小鳥のさえずりのようなキュートなバイオリンの短い高音、長音の哀愁を感じました。ヴィオラの落ち着いた音色でルビンシュタインのノクターンを楽しめました。高音域では息もたえだえの美しい音色でした。ピアソラのブエノスアイレスの四季は、弦楽器の技巧を駆使されてピアソラの世界へ招待してもらえました。

ブラームスピアノ四重奏、ピアノの端正な響きが素晴らしい。第3.4楽章の盛上りに驚きました。各々の弦楽器が役割を果たし、そして音色が美しい重奏なのに3つの楽器が聴き分けられる。スゴイ！

（外村律子さま）

とても暑い京都の夏の日でしたが、さわやかな弦の音とピアノのハーモニーに暑さも忘れてしまいました。ピアソラはバンドネオンの音色しか知らなかったのですが、弦だけであれだけ幅広い音が出せるのだと感動しました。ブラームスも熱い演奏でブラボーでした。アンコールも気持ちが落ち着きました。

今回の素晴らしい演奏会、ありがとうございました。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロのそれぞれの独奏は、テクニックは勿論、各楽器の特色を活かした素晴らしい演奏を聴かせていただきました。また後半のブラームスのピアノ四重奏は、正に圧巻でした。力強く、そうはいつでもきれいな曲で素敵な演奏を堪能させていただきました。演奏者の方々、お疲れさまでした。そしてありがとうございました。ブラボー！！アンコール曲最高でした。

本日は正面前から2列目。弦楽三重奏をわずか、3m程で聴けて、それぞれの楽器の大きさが比べられよくわかった。その後ソロでの演奏3曲。楽器の音色の違いが体で感じられた。ヴァイオリンは胸のあたりに感じ、ヴィオラはお腹上部、特にヴァイオリンとヴィオラの超高音部にしびれて、チェロはお腹全体に響きわたるように感じ、気持ちよい時でした。この講座で音楽が身近になり、毎日が日曜日の生活に色彩のある豊かで情感のあるつややかな時があるようになった。（月に2回演奏会に行くようになった）ピアノが加わり四重奏は迫力があり体全体に響きわたりました

ブラームスのピアノ四重奏は、熱のある演奏で大変よかったです。私は初めて聴く曲でしたが、好きな曲になりました。大変暑い中でしたが、参加してよかったです。ありがとうございました。

素晴らしい演奏をありがとうございました。とても
もげいたくなく時間を過ごせました。どの曲も素晴ら
しかったです。暑さが吹っ飛びました。

本日のプログラム曲は初めて聴く曲ばかりでとて
も新鮮で、かつ良い気持ちになり大変楽しくなりま
した。又、ピアソラのブエノスアイレスの四季の
「夏」はクラシック曲では聴けない演奏(?)もあ
りリズムカルで堪能しました。

バロック、ロマン派など様々な楽曲を奏でる弦楽器
の音色とピアノを含めたハーモニーを楽しむことが出
来ました。音楽を聴くことで心が安らぎ、暑い夏のひ
と時を心豊かに過ごすことができました。本日は本当
にありがとうございました。(荒井さま)

ブラームスが聴けて良かった

素晴らしい演奏をありがとうございました。

本講座の受講生さんの作品です。アンケートのかわり??
金本さんも気に入って写真を撮っておられました。
この方は「水彩画」の講座も受講されています。
受講生さんの中には多彩な楽しい方々がおられます。
音楽のたのしみ方は人それぞれ、いいですね~



次回は9月16日(月)

会場: 鴨沂会館

13:00開場 13:30~15:30

「特別講座 作曲家などのお話」

小味泷 彦之さん (音楽評論家)



ベートーヴェン
Ludwig van Beethoven



バッハ
Johann Sebastian Bach



モーツァルト
Wolfgang Amadeus Mozart



シューベルト
Franz Peter Schubert



チャイコフスキー
Pyotr Ilyich Tchaikovsky



ショパン
Frédéric François Chopin

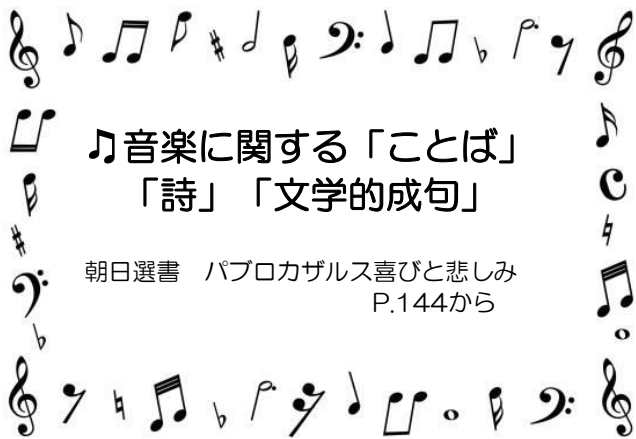


ワーグナー
Wilhelm Richard Wagner



滝澤 隆典
Katsunori Takai

ヴァイオリンとピアノと共にお届けします。演奏会のための曲目解説、コンサートの
プロデュースも手がけ、新聞・雑誌等で演奏会の音楽評を担当。その他大活躍の方です。



音楽に関する「ことば」 「詩」「文学的成句」

朝日選書 パブロカザルス喜びと悲しみ
P.144から

《各号スペースがあれば、田中の独断でいいな~と思った「ことば」や「詩」・文学的成句などを書いていきます。》

8月、やはりこの月は戦争と平和についての「ことば」になりますね。

とりわけ今日の世界の現状は……本当に胸が苦しくなるような、目をそむけたくなるような日々となっています。こんな時に音楽なんて……と思っている人もおられるかもしれません。

しかし、逆にこんな時だからこそ…という発想をし、非人間的な事象の正反対の世界もありうるのだという、一つの印、その事に力を得る事も出来るのだと前を向くために、やはり一人の芸術家の言葉を選びました。



ただ1人の子供の命は、私の音楽の全てにまさるものだ。戦争（第一次大戦）の狂気の真っ只中で私が正気を持ちつづける事ができたのは、音楽のおかげだったろう。音楽は、私には人間が、そうだ、現在このような荒廃と苦悩のみを引き起こしている人間が、創造し得た美の証明でありつづけた。私は思い出した。一世紀前にヨーロッパがナポレオン戦争に荒らされたとき、ベートーヴェンが残酷な戦いに苦しめられながら、偉大な傑作を創造しつづけた事を。邪悪と醜悪がはびこる今こそ、人の心の中にある、高貴なものを愛することは大切なことかも知れない。

（朝日選書 パブロカザルス 喜びと悲しみ P.144から）

☆カザルスは生前京都に来ています。

京響とカザルスの愛弟子であった平井丈一郎氏の演奏会（曲はドボルザーク、チェロコンチェルト）の指揮のためでした。

1961.4.20 カザルス84歳。

実は、1938年来日予定だったが、1937年日中戦争がはじまり、当時の臨時措置法により、ドイツ・イタリア以外の外国音楽家の講演は「戦争目的のため、不要不急」として禁止。1939年にも日本公演が計画されたが、カザルスが拒否。

パブロカザルス、またはパウカザルス（1876~1973）

↑スペイン語

↑カタロニア語